

木次線ストロール⑨ **出雲三成駅**

「国の名勝、天然記念物と

奥出雲の名家の邸宅」

取材日は5月20日の月曜日。五月晴れ、昨年からスタートした木次線ストロールだが、雪や雨の日が多く、こんなに晴れてくれたのは初めてだ。沿道の田んぼは田植えを終えたものが多く、水面に青い空が写ってキラキラ輝いている。

庄原の自宅から車で1時間20分

ほどで亀嵩（かめだけ）駅に到着。ホームで列車を待っていると、対面の林の中からウグイスの鳴き声が聞こえてきた。9時18分発の列車に乗車。黄色と水色のツートンカラー、黄色は木次線のきすき色、水色は出雲神話で重要な役割をする川を象徴している。先客はなく、わたし一人。

インバウンドも関係なし。亀嵩川の渓谷沿いを進んで、少し長いトンネルを抜けた先が出雲三成だった。乗車時間は9分ほど。駅舎は近代的な建物に変わっている。映画の『砂の器』（1974年）が撮影された当時の駅舎の写真が、『砂の器』と木次線（村田英治）に掲載されているが、木製の駅舎に円柱の赤い郵便ポスト、駅前には公衆電話ボックスがある。懐かしい写真だが、今でも映画の中では訪問することができ

る。出雲神話にちなんだ駅の愛称は



「名勝鬼の舌震」は巨岩、奇岩がゴロゴロ

「大國主命（おおくにぬしのみこと）」。三成をふくむこの辺りを古代では三澤郷（みざわのさと）と言い、大國主命がこの地に住まわれて、御子の阿遲須伎高日子命（あじすきたかひこのみこと）との逸話が記されている。

駅舎の中にある「奥出雲町観光協会」で情報収集、パンフレットもたくさんいただいた。レンタサイクルを利用することにした。電動アシスト自転車を選択、4時間で720円、1時間超過する毎に300円加算される。

強化プラスチック製のヘルメットを装着、簡単な操作方法を教えてもらって出発。電動自転車に乗るのは初めてで、漕ぎ出しがグンと加速するので少しとまどうが、運転時は普通の自転車感覚で、当たり前だがペダルが軽い。坂道でもさほど負荷がかからないので快適だ。腰痛持ちなので、徒歩だと躊躇するような距離も大丈夫。

駅前の国道314号線を横断して斐伊川の橋を渡る。県道25号線を見ると「名勝鬼の舌震」の標識が見えてくる。田植えを終えた棚田から、蛙の鳴き声が聞こえてくる。「鬼蕎麦」の店の手前を右折する。鬱蒼とした森の中にある屋根駐車場まで駅から25分ぐらいい。

鬼の舌震（したぶるえ）は、斐伊川の支流大馬木川の約2kmにわたるV字渓谷。黒雲母花崗岩地帯

を急流が長年にわたって浸食して、水瓶岩、鬼の洗濯岩、大天狗岩、鬼の落涙岩等々、不可思議な形の巨岩が姿を見せている。国の名勝、天然記念物にも指定されている。

鬼の巢窟のような名前だが、由来は出雲風土記の「恋山(したいやま)」に出てくる悲恋物語。かつてこの地には玉日姫という美しい女神が住んでいた。その女神をワニ(サメ)が慕い、夜な夜な通ってきたのだが、それを嫌った女神は巨岩で川をせき止め拒絶した。ワニは一層激しく姫を恋い慕い、「ワニが慕った」が転じて「鬼の舌震」という名前になったと言われている。



舌震亭の名物「イノシシ肉のコロッケ」と「鬼のはなくそ」  
注文してから揚げるのでホクホクだ



絲原邸の外門と杉並木  
記念館・庭園・散策路と見どころは多い

渓谷には高さ45m、長さ160mの「舌震の“恋”吊橋」がかかっているのだが、歩く足が震えて橋の下を見ることができなかった。その吊り橋も含めてバリアフリーの遊歩道も整備されている。わたしは川べりの遊歩道を休憩所の清心亭まで行き、渓谷の上部にあるバリアフリーの遊歩道で帰って来た。下高尾駐車場まで完走すると約2・3km、清心亭まではその半分弱だ。汗ばんだ肌に、渓流を渡る風が心地よい。ボルダリングのクライマーならば、垂涎の岩場ばかりだ。

渓谷の入口にある舌震亭で少し早い昼食。三段重ねの割子蕎麦に、山女魚(やまめ)の塩焼き。地元産の山女魚は身がしつかりしていて食べ応えがある。厨房からご主人の山田孝之助さんが出て来てしばし談笑。お薦めのメニューはありますかと尋ねたら、揚げたてのイノシシコロッケ(300円)をご馳走してくれた。ひき肉はすべてイノシシ、臭いはまったくなく、味に深みがある。お土産に「鬼のはなくそ」(300円)、こげ茶色のまるっこい揚げ饅頭が二つ。大胆なネーミングだが、山田さんのアイデア。とてもおいしい「はなくそ」だった。

電動自転車で、県道25号線に戻ってさらに上ると、絲原記念館がある。江戸時代に松江藩の鉄師頭取を務めた名家である。家屋敷や所蔵美術品、たたら関係の史料、庭園が公開されている。記念館・庭園・散策路共通券が大人千円。渡り廊下のある豪華な屋敷内に、谷文晁や田能村竹田などの巨匠の作品が掲示されている。奥出雲の山々を借景とした池泉回遊式出雲流庭園は、国登録記念物指定。製鉄の神様、金屋子神社が敷地内にある。

絲原家は、大江賢次の小説「絶唱」の園田家のモデルでもある。3回も映画化され、実際に絲原家で撮影が行われた映画もある。浅丘ルリ子と小林旭が共演したときの顔ハメ看板が置かれていた。

駅前に戻って、少し離れた場所にある三成の町中を自転車で散策。奥出雲町役場(仁多庁舎)があり、山陰合同銀行、大規模なショッピングセンターサンクスがある。暮らしやすさを実感した。

毎年8月24日に開催される「三成愛宕祭」は盛況で、山頂にある三成愛宕神社に行きたかったが、体力の限界で今回は断念。駅に戻って自転車を返却、隣の店舗の「仁多特産市」で買い物。自分と同じ名前の「煎茶・赤川」、庄原と同じ赤川という地名があるのだろうか。やはりたたら鉄穴流しに関係？

今回は亀嵩駅まで歩いて帰る元気はなく、15時27分発の備後落合行に乗車。帰りの便があるのはありがたい。

# 今月の3冊

どら書房の店主が毎月オススメ本を3冊選んでご紹介します。

## 「余多歩き菊池山哉の人と学問」

前田速夫 著 晶文社

在野の郷土史家として精力的に活動した菊池山哉の初の本格評伝。自ら主催する「多麻史談」に掲載した行動の日録「余多あるき」。余多とは足もとの定まらぬヨタヨタ歩き、跛鼈千里（はべつせんり）の謙遜である。学術や理論よりも現地調査を優先、膨大な記録を残した。

被差別部落の白山神こそ、日本の原住民の信仰ではなかったか。こうして全国の白山信仰の地をくまなく踏査。日本原住民=ウエッター=オロコ説、別所=俘囚移配置説、日本語二源説等々。学会の通説に臆することなく大胆な仮説を発表。正統派の学者や学界にとっては、山哉は在野の与太者なのである。



## 「ある行旅死亡人の物語」

武田惇志・伊藤亜衣 著 毎日新聞出版

行旅死亡人とは、名前や住所など身元が判明せず引き取り人不明の死者のこと。「本籍(国籍)・住所・氏名不明、年齢 75 歳ぐらい、女性、身長 133cm、中肉、右手指全て欠損、現金 34,821,350 円」。官報のデータに興味を覚えた共同通信の記者が調査開始。

古いアパートに遺されていた年金手帳から氏名は田中千津子、生年月日も記載されているが、住民票がなんらかの事情で削除されていて身元がわからない。「沖宗」という印鑑から、沖宗姓の多い広島出身ではないかと推測、広島まで乗り込んで……。死者の人生が徐々に浮き出てくる。謎はすべて解けるのか？



## 「ムンジャクンジュは毛虫じゃない」

岡田淳 著 偕成社

児童文学を読むのは久しぶりだ。克彦と稔は、オーブ荘というアパートに住む小学五年生の同級生だ。そこに、転校生の良枝の家族が入居して来る。良枝が町の近くのクロヤマからオレンジの花を採って来たことで騒動が始まる。珍しくてきれいな花はたちまち評判になり、採り尽くされてしまう。

さて、ムンジャクンジュ、これも良枝が拾ってきた毛虫のような生きもので、最初はご飯粒の大きさだったのが、オレンジの花(クロヤマソウ)を食べてどんどん大きくなる。最後は怪獣のような大きさになって、町に移植したクロヤマソウを食べ尽くし……。さて、ムンジャクンジュの正体は？



## 「ぐんぐん伸びよう会」

(教室：庄原市川西町 241 連絡先：080-3631-9125 やないたえこ)

### 自学自習力を育てる (2)

小学生、中学生の間に、いつも大人に頼って勉強するのではなく、つらいこともあるけど自分自身の頭を使って、例題をしっかりと読み取り(理解し)、問題を解いていくことを継続していくことこそ、学力の向上のみならず、生きる上で欠かすことのできない根気、忍耐力を身に付けることができます。

### 黒板のない教室



旧米沢高等工業学校本館

無料体験学習受付中！！ お気軽に問い合わせくださいね。

対象者：0歳～小学6年生

## ハロー注意報⑥

### ——進駐軍がいた町のはなし

## ミス・ハープサーのウイנק 松岡初枝

埼玉県狭山市と隣接する入間市は昔から養蚕と茶業で、ほとんど一体となって発展して来た地である。明治の中頃から大規模な製糸会社が操業を始め、大正期には県外も含め八カ所の工場で優れた絹が製産され、



狭山茶の茶摘みの風景

アメリカなどへの輸出も伸びていった。特に進駐したジョンソン基地内の歯科医リチャード・キヤッセル氏などは、当地の養蚕に関心が高かったという。戦前からあった製糸会社の壮麗な洋館を迎賓館として、軍の上官達を接待して絹糸の売り込みに努めていた。

絹糸が対外向けだとすると、茶葉は主に国内向けの農産品で、一八〇〇年代に東海地方以北で最初に量産化に成功し、以後狭山茶として好まれるようになった。絹糸も茶も、農家にとつては重要な現金収入なので、戦後間もなくこの産業を再開した。

五月になる頃、茶農家は一斉に茶摘み始める。立地によって多少の差はあるものの、一番茶の新芽が出る数日間が大事な時期、当時は手摘みが主流だったので猫の手も借りた忙しさだ。そこで当地の中学生が猫の手の代わりに駆り出され、中学一年生の私は初めての茶摘みをする

ことになった。いわゆる“お茶休み”という農繁休みで、市内一斉に行われていた。

茶摘みは簡単そうだが、摘み残すと二番茶に影響が出るらしく、きれいに摘まなければならぬ。なによりどの茶畑で作業するかも問題で、どの農家も学生は有難迷惑な存在らしい。やっと友達の家で容れ入れてくれた。摘む前におじさんが「こうやって新芽の元を持って一枚づつ丁寧に摘むんだよ」。「はい」とは言ったものの、なかなかうまくいかない。一日が終る頃何とか竹かご一杯になった。「ハー…」友達も私も畑にへたり込んだ。慣れない作業を四日間続け、手はガサガサ、腰は痛い。それでも最終日には手間賃が出た。「みんなの摘み残しを後からきれいにするのは大変なんだよ…」おじさんはブツブツ言いながらもお金を払ってくれた。「お茶休み」はこの年の一度だけの体験で、次の年から廃止になった。世の中は受験戦争が激しくなってきたのだ。今は機械摘みになったが、新茶の時期になると懐かしく思い出しながら、香りよいお茶を楽しんでいる。

六月になり、基地内の将校夫人や女性事務官などがボランティアで英

語の授業にやって来た。当時の基地司令夫人肝煎りで始まった特別授業で、入間川中学の一年生限定でヒアリング・スピーキングを教えてくれるのだ。各クラスに先生が割り当てられ、全体のまとめ役は基地の日本語教師で日系二世でハワイ出身のK先生が全体の通訳をする。私のクラスはミス・ハープサーという三十歳ぐらいの事務官が先生となった。授業は水曜日の六時限目に決められた。

ミス・ハープサーは紙袋の中に一杯の三角柱形の名前を書いたものを持って、にこやかに教室に入ってきた。「グッドアフタヌーン・エブリワン」。「スタンドアップ・バウ・シットダウン」日直が声を掛けて一礼する。「ナウ・トゥデイ・アイウィルギブ・エブリワンズネーム」彼女は袋の中の三角柱を順に配ってくれた。男子は「ボブ」「ロバート」「ジョン」など、女子は「メアリー」「マーガレット」「マリア」、私の番が来た。「アン」(Ann)と書いてあった。何とアンは一番欲しい名前だったのだ。もう嬉しくてニヤニヤした。でも少し不満もあった。「Anne」のアンがよかった。そう「赤毛のアン」のアンが「e」を付けたアン」といつも言っていたあのeなのだ。



基地司令夫妻と学生



左から私（アン）、「マーガレット」、「メアリー」、「マリア」

一回目の授業は挨拶や自己紹介などで終了したが、私はドキドキしながらミス・ハーブサーの所へ行き「アイオント・スモール・e・プリーズ」知っている限りの言葉で願ひ出た。「ドゥユーノウ・アンオブグリーンゲイブルス?」「イエス」、あつ通じた、と思つたらすぐに「Ann」の後ろに「e」と書いて、彼女はニッコリ笑つてウインクした。「アイライク・アンシャーリー・トゥー!」大きな体のミス・ハーブサーが少女のように

見えた。私は小学六年の時に「赤毛のアン」を読んですっかりアンの虜になっていた。アン、ダイアナ、ギルバート、マシューにマリラ。続編も次の巻もアンの人生を読みながら、プリンスエドワード島に思いを馳せていた。自分の英語名がアンになり、しかもeのついたアンだ。「神よあなたに感謝のキスを捧げます」アンだったら大袈裟に言うだろうなと思つた。それから水曜日の六時限目が待

ち遠しかった。夏休みが近づく頃になると、なんとか簡単な会話ができるようになっていた。男子が悪ふざけして「ミス・ハーブター」などと言う。太めの彼女は「ドント・ハーブター!」。教室中で大笑いすると、彼女も笑いながらウインクする。授業が終り、掃除時間になると、悪童男子のジョン、ボブなどが西部劇を真似て箒の銃で撃ち合いをして先生に叱られたり、マーガレットやエリザベスが女王様のように優雅に歩いたり、別世界の疑似体験しているよう

だった。

十二月に入り、最後の授業の日、「サイレントナイト」を歌い、それぞれ持ち寄つたプレゼント交換をした。ミス・ハーブサーは黒板に「ブイスマイル!」と大きく書いた。「エブリワン・ブイスマイル!」と泣きそうな顔で言った。皆も彼女を囲んで泣いてしまった。あの「ミス・ハーブター」と

言つた男子も泣き笑いしていた。

約五カ月近い授業だったが、Anneになりきつた私は本当に楽しい日々だった。そして私の心の中で英語の名前を貰つた時からずっと、あの男子の事が思い出されていた。もしこの授業にすぎ子がいたら「ベル」という名で呼ばれたのだろうか。「アイアムベル」と言つて笑つただろうか。すぎ子は今、アメリカでベルと呼ばれているのだろうか。「ベル、私はアンだよ。いつかアメリカで逢つたら互いにそう呼び合おうね」。すぎ子は「はっちゃんにはアンが似合うよ」と言つてくれそうな気がした。

私の中学生活の一年目はあまりにも変化に富んだものだった。前の年の十一月にケネディが四十三歳でアメリカの大統領になったこともあつて、急に明るいアメリカという印象も強くなつていた。いろいろな負の部分もあつたが、基地があることによつて英語の特別授業が受けられたことは、少しだけ得した気分だったのは間違いない。だからと言つてこの地で育つた子供たちが英会話の達人になつたかは知らないが、度胸だけは身についたと思つている。

探偵と名乗る人物に会うのは初めてだった。名刺には、戸倉探偵事務所、戸倉正義と印刷されている。所在地が東京都新宿区大久保……、東京の繁華街に事務所を構える探偵が、広島の山間にある片田舎の古本屋に、何の用事があるのだろうか。「西沢孝児さんのことを調べてみてね」

懐かしい名前を告げられて、思わず探偵の顔を見た。酒焼けしたエラの張った顔は、いかにも皮が厚そうだ。

「正確には、ニシザワトモコさんの調査なのですが……」

説明を始めた。

ニシザワトモコ氏は、三か月ほど前に横浜市の「リバーサイド・ハイツ」というアパートで亡くなっていた。検死解剖で、外傷はなく、心不全による突然死であることが確認された。洗濯機の中には、衣類が干されることなくそのまま入っていた。

押入れの金庫の中から、多額の現金が見つかった。聖徳太子の肖像の入った旧一万円札で、千五百万円。新札ではなく、かなり使い込まれたお金だった。身元確認が行われたが、保険証はおろか、身元を証明するものは何も残っていない。ニシザワト

モコは、行旅死亡人として処理された。

「コウリョウシボウニン」とは、身元不明で引き取り手のない遺体を指す法律用語なのだという。遺体はすでに公立の斎場で火葬され、遺骨もその斎場で保管されている。

財産が残されているので、相続人を調べる義務がある。横浜市が家庭裁判所に相続財産管理人を申し立て

孝児の姿が消えた。

近所に住んでいる大家に、ニシザワトモコは毎月末に家賃をきちんと払いに来ていたという。どんなさんの姿が見えないようだけど、と大家が尋ねたことがあるのだが、喘息の持病が悪化して、九州の実家で静養していますと答えたそうだった。

複製だという一枚の写真を見せてくれた。中年の男女が写っている。

## 雨の訪問者

あきふゆひこ  
亜木冬彦

現代御伽草子 ⑨③

※県北の歴史や風物を題材としたフィクションです。

て、そこで選任された弁護士が、戸倉に調査を依頼したというわけだ。現金なもので、弁護士の公的な依頼ということ、戸倉のイメージが一変した。

アパートの契約者は西沢孝児で、二十年以上も前の契約書には、同居者は書かれていない。いつの間にかニシザワトモコと一緒に住むようになり、いつからかアパートから西沢

いくら蓄えがあるといっても、部屋に閉じ籠っていたわけではないだろう。

「ちゃんと働いてましたよ。近所の総菜屋や食堂なんかのアルバイトです。身元確認の必要がない臨時雇いの仕事ばかりです。風呂もない古いアパートですから、家賃も安いし、つましい生活を送るだけのお金は自分で稼いでいたようです」

千五百万円は、使うことのできないお金ということだろうか。銀行に預けずに現金で残していた理由がある？

「実は、こういうものも、金庫に保管されていましたね」

もう一枚、写真を持ち出した。四百字詰め原稿用紙の束を、黒い紐で綴じているものが写っている。表紙には大きく「サーカスの子供」と書かれたあとに「西沢孝児」の署名がある。

「西沢さんの自伝のようです。残念ながら、ニシザワトモコさんのことはまったく出てきませんでした。サーカス団が解散して、家族がばらばらになるところで終わっています。最後のページに、あなたの名前と電話番号が書かれてましたね」

わたしが勤める会社に、孝児から



電話がかかってきたことがある。最初は名前を聞いてもわからなかった。福山市の中学の名前を出されてようやく思い出した。

どこかでわたしが出版社で働いているという話を聞いたらしくて、自伝を自費出版したいという相談だった。出版社と言っても電機業界の小さな専門誌で、うちでは扱っていないと告げると、あっさり引き下がった。ゆっくり話がしたいと電話番号を聞いたが、また電話するよと言って通話は切れた。もう三十年以上も前の話である。

「あの会社はもうつぶれているのに、よくわたしの居場所がわかりましたね」

「まあ、蛇の道は蛇、ですかね」

優秀な探偵なのだろう。孝児の係累をすべて調べたのだが、両親はすでに亡くなっていて、近しい親族は誰もいず、天涯孤独の身であったらしい。

孝児とは同じ転校生ということ仲良くなった。家族でサーカス団員だった孝児は、長くて半年、短くて一カ月の滞在で、全国各地を転々としていた。わたしの錆びた古い自転車で、曲乗りを披露してくれたときは驚いた。まるで自分の体の一部のように自在に操った。最後は、サドルとハンドルを掴んで倒立した状態で、わたしの周りをくるくる廻って見せた。

いじめを受けている女の子がいた。母親のいない家庭で、どこか薄汚れた格好をしていた。吃音癖があつて、それをよくからかわれていた。梅雨時の激しい雨が降っている日だった。校舎の下駄箱の前で、彼女が泣きそうな顔で外の雨を眺めている。誰かが傘を隠したのだ。

孝児が自分の傘を開いて彼女に差し出した。驚いた彼女の手に、その

傘を強引に握らせると、大きな雄たけびを上げながら、猛然と雨の中を走り出した。わたしも後を追いかけた。無性に自分が恥ずかしかった。

孝児は、ニシザワトモコさんを守ったのだ。病気だろうか。死期を悟った孝児は、自分が死ねば彼女の正体がバレてしまうことを恐れた。自分が生きていくことにすれば、彼女の平穏な生活を守ることができ……。

「自伝は、西沢孝児の自伝はどうなるのでしょうか？」

「このままでは法定相続人がいないことになりそうですから、最終的にはお金と一緒に国に帰属することになるでしょうね」

「読むことはできませんか？」  
できれば、本にしてやりたいと思った。

「わたしの一存ではなんとも。でも、あなたの希望は、依頼人に伝えておきます」

戸倉は一礼して、グレイのハンチングを被り直した。外は雨が降り続けている。

参考文献…「ある行旅死亡人の物語」

(共同通信大阪社会部・武田惇志、伊藤亜衣 毎日新聞出版)

## 東京藝術大学卒業記念コンサート

～庄原市出身の切田光星（三次高校出身）が  
東京藝術大学の同級生と共に贈る声楽アンサンブル～

出演：切田光星（バリトン）、塚田信司（バリトン）、上杉武（テノール）、米倉令真（ピアノ）

日時：6月15日（土）午後2時開演（午後1時半開場）

場所：庄原市民会館（0824-72-4242）大ホール

演目：荒城の月（瀧廉太郎）、鐘が鳴ります（山田耕作）、  
歌劇「コジ・ファン・トゥッテ」（モーツァルト）より、他。

チケット：一般1500円、高校生500円、中学生以下無料

販売：ジョイフルながえ、庄原市民会館、サングリーン三次 主催：里山まちづくりの会



# 「旧暦」のカレンダーを見る

古川行洋

## 第二部 歴史事項を見る

五月の回2 (全2回)

五月七日 備中高松城水攻 天正

十(一五八二)年

天正十年三月十五日、播磨・但馬・因幡三方国の将兵を率いて姫路を発した羽柴秀吉は、備前の岡山にいた



り、十四日、清水宗治の難攻不落の備中高松城を攻めるため竜王山に布陣した。冠山城を落し、五月三日には宮治山城を干(ひ)殺し戦術で陥落させ、高松城にせまった。高松城は毛利氏援兵もあり、周囲が沼と低湿地と堀で塞がれていた。それで、秀吉は蛙ヶ鼻(かわずがはな)に本陣を移し、城の周囲に堤を築き、これに足守川の水を引き入れて梅雨による水攻めの作戦を打ち出した。城下一帯はたちまち湖水化した。

五月十九日 桶狭間の戦 永禄三(二五六〇)年

織田信長と今川義元の戦い。信長は桶狭間に義元を奇襲、敗死させた。

駿河の守護大名今川義元は二万七千の大兵を率いて駿府を出馬。十八日、時に四十五歳の義元は尾張に侵攻した。この情報が尾張半国の大名織田信長の居城清洲に伝達されたのは五月十八日の夜であった。当年二十七歳、夜半すぎて幸若舞(こうわかまい)の「敦盛」の謡(うたい)

の一節「人間五十年、下天の内を比べれば、夢幻の間なり…」を三度も舞い、終わるや小姓七、八騎を連れて出馬した。そして、熱田神宮に参拝し、戦勝を祈願する頃には、一千八百ほどの軍勢が集まった。

忍びの者から「義元本陣が桶狭間の方に向きを変え、途中の田楽狭間で小休止している」との情報が入る。田楽狭間は狭い窪地であるから、五千に余る本隊は縦隊にならざるをえない。信長は、一千八百の将兵と一丸になり田楽狭間の背後にある太子ヶ峰に分け入った。信長の潜入したことなど夢にも知らず、義元は度重なる勝報に喜び祝い酒を飲んでいった。そのとき、大雨になり今川勢は大雨を避け木陰に散らばった。大雨が止みかけたとき、信長は直ちに突撃命令を下し全軍が義元の旗本めがけて襲いかかった。この一戦によって今川方を再起不能にし、両国尾張の統一に成功した。世は天正十(一五八二)年の本能寺の変までの二十三年間、信長を中心に回ることになる。

※写真「桶狭間古戦場公園」(名古屋市)にある信長と義元の像。

五月二十四日 義経腰越状 文治

元(一一八五)年

腰越は鎌倉の西方、七里ヶ浜の西端の海岸地帯。兄源頼朝の勘気をこらうむり腰越にとどまった源義経が、幕府の書記大江広元にあて真意を訴え、とりなしを頼む書状をこの地の満福寺で起草したとされる。頼朝は政権を強固にするため、かねてより御家人武士の賞罰の権限を独占掌握することにつとめていた。朝廷の官職授与についても、必ず自分を通して行うよう、朝廷にも強く申し入れてあった。そうしておかないと、いつ御家人武士が幕府から朝廷に鞍替えするかわからないのである。ところが義経は、そんな頼朝の基本方針を踏みにじっていたのである。義経が弟であるだけに、権威を示すため厳しい処置に出たのである。

鎌倉まであと一日と言う日に、捕虜の平宗盛を受け取りにやって来た北条時政から「鎌倉に入ってはならぬ」という、頼朝の命令を聞かされたのである。自分が全く異心のないことを切々と書き綴った腰越状を送ったが、頼朝の不興は解けず義経は京都に戻る。

(著者は広島市安佐地区の郷土史研究会「安佐通史会」の会長。旧暦の啓蒙や「旧暦カレンダー」の普及に尽力している。)

# ジョーズの独り言

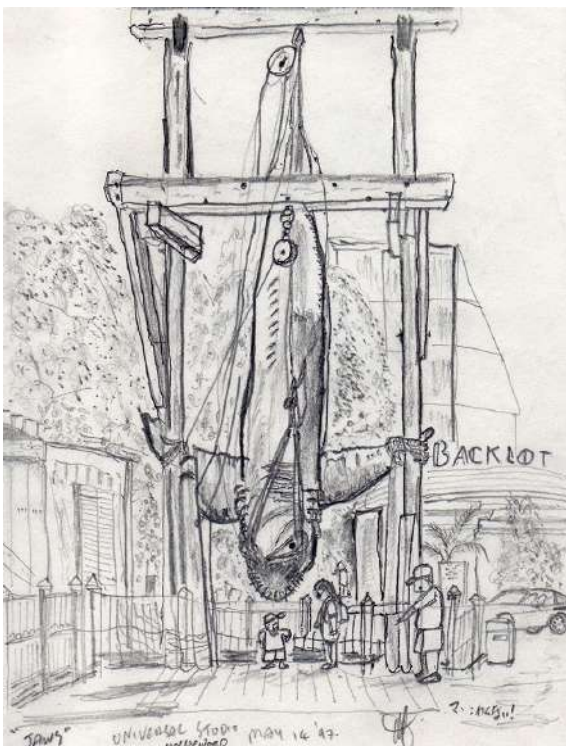
マック☆ヤマザキ

俺はユニバーサルスタジオの大スター、サメのジョーズ。鮫、フカ、シャーク、とも呼ばれている。日本の我々サメとのつながりを伝えておこう。

広島県の県北、庄原や三次では俺たちのことを「ワニ」と呼んでいる。海から離れた県北では新鮮なまま輸送する手段が昔はなくて、俺たちは体内に含まれるアンモニアの成分が

比較的長い間新鮮さを保つため重宝された。いや、今でもこのアンモニアの臭いが癖になって、正月、盆、お祭りなどのお祝い事に食されているのだ。アンモニアの臭いを和らげるため、生姜をおろして食べる。サメの皮は、サメを料理する料亭では「サメのおろし金」として活躍しているそうだ。

先日、地元の魚屋さんに入ってみた。10センチ×5



センチぐらいの切り身にされているのに出会った。商品名のラベルには「高知県産ワニ」と記され、驚いたことに隣の紙片に「ネズミ」と書かれていたんだ。何かの間違いかと尋ねてみたら、世界中に、350種類いる仲間のうちの

ネズミザメの魚肉なのだと言明を受けた。生身の食べ物にわざわざ「ネズミ」なんて書かなくてもいいだろうに、びっくりしたね。ちなみに、「ネコぎめ」もいて「ネコ」と貼り紙するのだと言っていた。

広島県北ばかりでなく、海なしの栃木県ではネズミザメが「モロ」と言われて煮つけにして食べる風習があるそうだ。乏しい海の食材を、少しでも美味しく食べようとする知恵なのだろう。「モロ」は学校給食にも出ていると文献にある。

鮫のサイズは様々、小さいものは手のひらに乗るほどのかわいらしさで、大きさでは一番の「ジンベエザメ」が水族館の人気者。現在記録されている最大サイズは17メートル、目視による計測では20メートル以上の個体も生存すると言われている。そのジンベエザメは別名エビスザメとも呼ばれる。ジンベエザメたちがいる場所にはカツオの餌になるイワシ類などの小型魚がいることが多いため、ジンベエザメがいたら、豊漁になるからだ。そんなエビスさまが、宮城県気仙沼の人々を飢えから救うために身を捧げたということから、ジンベエザメの慰霊碑が作られている。三重県伊勢神宮のおひぎもとでは、

伊勢の名物「赤福餅」の他に、神様に供える食べ物として、崇められている。伊勢土産として「サメタレ」(干物)の名称で伊勢市、鳥羽市に貢献している。かつては朝廷への貢ぎ物とされ、神話にも登場する。今は庶民の酒の肴で、直火で軽く焦げる程度にあぶる。鮮度のいいものは3枚におろして刺身で食べる(鯛に似た味がするという)。伊勢志摩町ではサメをなますにして食べる「さめます」という郷土料理があるそうだが、ネコザメに限るといわれている。

ご当地アメリカでは、アメリカ食品医薬局(FDA)が、サメは有機水銀が蓄積されている可能性が高いので摂取しないよう警告を行っている。ハワイ州、カリフォルニア州ではフカヒレの所有すら禁止する法律を施行。航空会社では輸送を制限したり、外資系のホテル「シャングリラ」、「ザ・ペニンシュラ」は料理の提供を停止すると言っている。

最後に、俺のいるロスアンジェルス・ハリウッドのユニバーサルスタジオに会いに来て！ ダジャーズ(ドジャーズ)の ショーヘイ・オータニを応援してください！

参考文献:「ほぼ命がけ サメ図鑑」(沼口麻子、講談社)

## どろくろ俳壇&歌壇

※参加を歓迎します。

梅雨晴を天から賜ふ誕生日

近藤 昌平

ひよいと乗せ様になる人夏帽ぼうし

富久光

新緑の近くにベンツ止まりをり

片岡 正人

白鷺も手伝いに来る代田搔しろたかき

隆愚

新入生授業で学ぶ鬼ごっこ

大槇 三代子

新緑や走りて隠るまあだだよ

寺内 龍二

出雲路や代田の中も五月晴れ

赤川 冬人

紫の鉄線の花あまた咲く

松岡 初枝

三十年前みそとせに娘この買かひくれし

## 投稿&寄稿

候のことば

隆愚

「農事暦とかまきり」

暦の七十二候で六月五日から六月九日頃を、芒種の初候、「蠅螂生」(かまきりしようず)といえます。蠅螂が卵から出てくる頃です。かまきり

が登場するのは何故でしょうか？ 稲や野菜には手をつけず、害虫を捕まえてくれるからかもしれません。とはいえ、そんな人間の都合はおかまいなしに、かまきりにはかまきりの生態があるだけです。

木の枝などに産み付けられた、白く茶色みがかかった卵から、小さなかまきりの赤ちゃんがうようよと出て

きます。卵はピンポン玉くらいですが、そこから、何百も出てくるのですから、どんなに小さいことか。それでもちゃんと親と同じ形をしていて鎌まで持っています。色もまだ淡く弱いのに、自分で虫を捕って食べながら大きくなっていくのです。

蠅螂や生まれてすぐにちりぢりに

軽部烏頭子(うとうし)

「クレジット」 赤川 仁洋

先日、ネットで買い物しようとして、いつも使っているクレジットカードが拒絶された。違うカードも試してみたが全滅。ポイントを使いたかったのだが、仕方なく違うサイトで購入した。

調べてみると、3Dセキュアというシステムが導入されているようだ。本人だということを確認するための二重承認システム、らしい。購入内容によっては、メールやスマホで送られてきた承認番号を記入する必要があるのである。クレジットの意味は「信用」とか「信頼」だが、もっと強化する必要があるということか。従来のカードを3Dセキュアに変更しようとしたが、作業が面倒なので断念、

新たなクレジットカードに加入した。

ネット社会になって、面倒事が多くなった。トラブルが起きても、電話で気軽に相談することができない。人工音声に誘導されて、問題解決までなかなかたどり着けない。これでは、スマホやパソコンを使わない人間はお手上げである。

店頭での買い物も端末決算が先進国の基準のように喧伝されているが、お金のやりとりがどうしていけないのだろう。小金による無駄遣いが一番楽しい、わたしの持論である。カードやスマホでは楽しみが半減する！



# どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など  
情報掲示板です。

## どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載して  
いるので、ダウンロードして  
お楽しみいただけます。



<http://shobara.wix.com/dorakuroa>

## 「庄原を想う会」主催の交流会

「気軽に庄原について話し、仲間の輪を広げよう」

日時：6月29日(土) 9:30～11:30

テーマ：「古事記に記された庄原の御陵について」

講師：徳永昭氏

(よりんさい比婆の里店主)

場所：生活交流館1

(備後庄原駅隣接)

参加費：500円

(学生200円、お茶菓子代込み)

申込み&問合せ：080-3631-9125 (やない)



さけくらべて  
なんじゃろ？

庄原の地酒を  
試してみたい  
あなたに  
おすすめ  
の酒を  
ご紹介  
します。

出演グループ、出店、フード  
キッチンカーも随時募集中！  
←DMにて受付中です

庄原酒販..... 利き酒・試飲イベント

# さけくらべ

IZANOMI SHOBARA-CITY SAKE MARCHE

6.15

土曜日

昼13時より夜19時まで

6.9

日曜日

朝9時より

お酒のお話

し・ま・せ・ん・か？

comeme  
市場

場所・お問い合わせ  
庄原酒販有限公司

庄原市中本町1-8-1  
☎(0824)72-2183

## 「ちくちくはうす玉手箱」手作り作品展

——着物リメイク・布小物などなど

場所：ギャラリーアート多愛夢

日時：6月8日(土)～10日(月) 10時～15時

問合せ：宍戸 080-1906-3391



## 九日市イベント情報

### ★物作りワークショップ広場

6月9日(日) 9時～13時 材料費込み各300円

クラフト製の小物入れのカゴ、ペーパークイリング(細長い紙をくるくる、巻いてお花作り)、羊毛フェルトストラップ、蜜蝋ハンドクリーム

### ★池田浩尚・特別ライブ 開始：10時半

場所：まちなか広場

## 編集後記

◇今月は、音谷健郎さんの「文学探訪」はお休みです。倉田百三の作品を読み込む時間がもう少しほしいとの要望でした。本が手に入りにくいようですね。

◇音谷さんの『文学探訪、「庄原」と百三の青春』の小冊子、「庄原市田園文化センター」にて無料で配布しています。どら書房でも用意しております。郵送希望の方はご連絡ください。

◇今月号で99号、次回は百号ですが、イベント等は何も考えていません。毎月刊行するので精一杯、というのが正直な現状(苦笑)。

◇バスケットボールのドラゴンフライズ優勝、おめでとうございます。野球もサッカーも広島は熱いですね。

発行：どら書房

〒727-0012

庄原市中本町 2-1-10

☎090(9913)3052(赤川)

e-mail: touzin@nifty.com

誌面デザイン: ROUTE183

協賛: 九日市愛好会

第273回

くんちいち

# ひょうばあ九日市

## ◇ イベント情報 ◇

### 物作りワークショップ広場(可愛い小物を自分で作ってみませんか?)

★クラフトショップ(クラフト製の小物入れのカゴ) ★和み屋(ペーパークイリング:細長い紙をくるくる、巻いてお花作り) ★くららおばさん(羊毛フェルトストラップ) ★蜜蝋ハンドクリーム  
※場所:三上宅 時間:9時~13時 料金:各 300 円



6月9日(日)

9:00~13:00

### ◇池田浩尚・特別ライブ◇

開始:10時半 場所:まちなか広場

## TOPICS

- ★市民ギャラリー「アート多愛夢」  
6月8日(土)~10日(月) 10時~15時  
「ちくちくはうす玉手箱(着物リメイク)」
- ★HONMACHI STAND→コーヒー100円引き
- ★カフェクラウド タピオカドリンク 100円引き  
九日市特製ビタサンド 600円
- ★利き酒・試飲イベント「さけくらべ」(庄原酒販) 場所:旧松本額縁店  
ガレージセール「comeme 市場」同時開催&高野名産のアップルパイも販売!
- ★どら書房→休憩室(漫画ルーム)あります!
- ★あなたも自分のお店を出してみませんか?(出店者募集中!)

\* 出店申込みは、【毎月20日締切】 コンパネ1枚スペース1,200円~  
九日市愛好会事務局 TEL/FAX(0824)72-8285  
〒727-0013 庄原市西本町2-1-10 (楽楽座内)

【ホームページ】  
<http://www.kunchi-ichi.jp>

